

Advance

#準備の一步が、自信の一步になる

今週のプロジェクトでは、12月6日（土）のSOLANフェスタに向けて、「まだ足りないことは何か」「あと1週間どんな準備や心構えが必要か」をみんなで話し合う作戦会議を行いました。特に有意義だと私が感じたのは、当日朝の動きをシミュレーションする時間でした。

子どもたちは、自分たちで司会進行をしながら、来場者が学校に入ってくるタイミングや、受付から各ブースまでの流れなどを1つずつ確認していきました。「案内のパンフレットがあった方がいいかも!」「この時間、受付に立てる人いないよね?」と意見を出す姿がとても印象的でした。

誰かが「もしブースの定員を超えたらどうしよう...」とつぶやけば、「整理券を配った方がいい?」「でも、どこで配布する?」「遅れてきた人は参加できない?」と、アイデアが次々に生まれ、『運営する側の視点』がしっかりと育っていることを感じました。

各ブースでやることの企画を立てるだけでなく、当日の来場者の動きをシミュレーションしてみることで初めて気づくことがある。その体験を、子どもたちは今まさに積み重ねています。そして、そうした気づきをもとに「もう一歩行動を増やしてみよう」とする姿が、今回の作戦会議では随所に見られました。

ここで1つ、本からの言葉を紹介します。

大きな行動をとれば、大きな変化が現れる。

自分が適切な行動をとっていることを確認し、それなりの成果を得ていたら、その行動をさらに増やしてみよう。

もっと大きな効果があがる。簡単なことではないか。

たとえば、営業の電話を一日に10件かけてそのうち1件か2件契約をすることができているのなら、電話の数を50から100にすれば、契約は5倍から10倍になるはずだ。

そして、あなたのビジネスの成長率は500から1000パーセントにもなる。

実際、行動を増やせば、単純なかけ算以上の成果をあげることができる。行動を増やせばそれだけ熱達し、成功する確率を上げることができるからだ。

かつての私と同じように、あなたも健康になるという目標を掲げて、週に3回、20分歩いているのなら、それを30分で週に5、6回まで増やしてみよう。

単純なかけ算以上の成果があるはずだ。

参考:「誰でもできるけど、ごくわずかな人しか実行していない成功の法則」
ジム・ドノヴァン: 著 桜田直美: 訳 (ディスカヴァー・トゥエンティワン)

今回の作戦会議は、まさに「未来の自分たちの姿をイメージし、そのために行動量を増やす」という体験そのものでした。

子どもたちは、「こう動きたい」という姿を思い描きながら話し合い、そのイメージに近づくために必要な準備や役割を自分たちで考えていきました。

今回の7年生の姿は、引用した本の示す「行動量が成長を生む」という考えに、とてもよく重なります。

フェスタの準備が進むにつれ、子どもたちは「ここはもう1回考えよう」「この役割、誰か手伝えないかな?」「あと1週間でできることを増やしたい」と、自分たちの行動を自然と「もう1歩増やす」方向へ動かし始めています。

もちろん、準備はいつも順調なわけではありません。

うまくいかない日もあれば、話し合いがまとまらないときもあります。

それでも、今回のシミュレーション後の子どもたちの表情はどこか明るく、「やってみたら見えてきた」という前向きな手応えがありました。

未来の姿をイメージし、そこへ向けて行動を増やしていく。

その積み重ねが、今の7年生を大きく成長させています。

保護者の皆さまには、いつもお子さまの何気ないひと言に耳を傾けていただき、心より感謝申し上げます。「今日はぜんぜん進まなかった」「ここをもっと良くしたいけれど難しい」「考えはあるけれど、どう伝えるか迷う」そんなつぶやきの奥には、本気で挑戦しようとしている姿が確かにあります。

7年生にとって、このSOLANフェスタはただの発表の場ではありません。

自分たちで場をつくり、未来を描き、その姿に向けて行動を積み重ねていく、そのプロセスこそが、最大の成長です。

12月6日（土）、きっと保護者のみなさんの想像以上の姿を子どもたちは見せてくれるはずです。

そして、12月18日（木）の3Q学習成果発表会では、その成長がさらに深まった姿をご覧いただけたと思います。

私も、7年生のみんなとその瞬間を迎えられることを、心から楽しみにしています。

[【試験運用】聴くClassNewsletterはこちら](#)

[【アーカイブ】11/25（火）ラジオSANQ視聴はこちら](#)
(蟹江蒼太さん、下山実彩希さん、津田樹希さん出演)

We will value "Purpose" and "Ownership" for you